

2023.3.31

## 「発達障害」分科会 2022年度活動報告

### (1) 会の代表者・連絡担当者等の確認 「発達障害」分科会

会長 吉井勤人  
副会長 長澤真史  
会計 板倉達哉  
監事 兵藤瑞穂

### (2) 令和4年度の活動報告書

#### ①総会 日時:2022年3月18日~25日メール協議

方法:メール会議(新型コロナウイルス感染症対策として)

議題:2022年度活動報告・決算報告および 2023年度活動方針

#### ②例会

日時:2022年11月3日(木) 14時00分~16時30分

方法:Zoom ミーティング

参加者:33名

■テーマ 外部専門家による支援の再考 -コンサルテーションによる対話と変容の過程-

保育現場や学校現場で行われる外部専門家による支援は広く行われるようになってきた一方で、その実践は画一的な枠組みによるというよりも、各地域の実態やリソースに応じて発展しており、その実際は多様である。そのため、外部専門家が担う役割やそこで求められる成果は多様である。

「発達障害」分科会では、昨年、一昨年と「外部専門家による支援の再考」をテーマに議論を行っている。昨年は埼玉県立大学の森先生をお呼びしてご講演いただき、保育現場、教育現場の実践を豊かにするための課題解決プロセスを支援することの重要性を提示していただいた。外部専門家と保育現場、教育現場による互いの専門性を尊重した対話と、対話の中から生じる互いの気づきや変容を捉えることで、特定の指導プログラムではなく、多様な実践の中での外部専門家の支援のあり方について検討した。

例えば、板倉・長澤・吉井(2022)による写真を用いた保育コンサルテーションの試みでは、保育者の主体的な課題解決を促進するために写真を用いて行った。その中では、写真を撮ることにより、①「保育者の課題が明確化」がされ、②「外部専門家の解釈や提案」と③「保育者の支援の実感や気づき」が合致することで④「支援や関わり方の工夫」が生まれていた。こうした課題解決の過程は、森(2014)の学校コンサルテーションの巡回相談員の関与の経過と共通する部分もみられ、多様な実践から課題解決プロセスを検討することは今後重要になると考える。

2022年度の例会では、外部専門家と保育・教育現場が対話していく中で、互いの変容の過程やこれらの共通点などについて検討した。これまで行ってきた写真を用いた保育コンサルテーションの実践に加え、通級指導教室等で特別支援教育に携わってきた元公立小学校教諭の亀田良一先生をお呼びして、外部専門家と現場との連携のあり方についてコメントをいただき、協議した。

#### ■スケジュール

14:00～14:20 企画趣旨(長澤真史)

14:20～15:10 発表

「写真を用いた保育コンサルテーションの実践—保育者の語りと主体的課題解決のプロセス—」  
文京学院大学 板倉 達哉

15:10～15:20 休憩

15:20～16:10 講演と話題提供へのコメント

『地域に根ざしたコンサルテーション事業の取り組み ～「継続性」と「現場性」をキーワードに～』  
元公立小学校教諭 亀田 良一

16:10～16:30 全体討論

#### ③学会活動

(b)研究発表(3PM1-P-PS31)

日本発達心理学会第34回大会 立命館大学大阪いばらきキャンパス

日時:2023年3月3日(金) 12:30～13:30

板倉達哉・長澤真史・吉井勘人

保育コンサルテーションにおける写真記録の可能性:写真の特徴や変化に関連して

#### (3) 令和5年度の活動計画 有

①総会の開催 メール会議 期間:3月19日～25日

②例会の開催 対面+オンラインの学習会

テーマ:コンサルテーションにおける発達論的アプローチの追求Ⅲ

Zoomなどを利用して、講演会または論文や書籍の輪読を行う。

③学会発表

④ニュースレターの発行